

世界遺産

～平泉から教わること～



中尊寺許可済

中尊寺 金色堂

2011年6月

平泉は世界遺産に登録されました!!

平泉

今から900年前の12世紀、奥州藤原氏によって作られ、100年間繁栄を極めた『浄土都市』の歴史ある町です。歴史を遡ると「この世の極楽浄土＝安らぎの地」は「安全」な地域でもあったことが現代まで続く文化となっている理由のひとつと考えられます。

そこで…

世界遺産の歴史を分かりやすく紹介するとともに、自然災害に強いこの地域の特性なども検証します。



中尊寺許可済

世界遺産平泉のこと知っていますか？

平泉は、今から900年前の12世紀、奥州藤原氏によって造られた「浄土都市」です。国造りはその後100年間、繁栄を極めました。世界遺産として登録された名称は「平泉－仏国土（浄土）を表す建築、庭園及び考古学的遺跡群－」対象は以下の5ヵ所となっています。

1. 中尊寺 （金色堂、同旧覆堂、経蔵、大池跡）



中尊寺許可済

2. 毛越寺 （庭園、常行堂）



岩手県立博物館許可済



毛越寺許可済

3. 観自在王院跡



藤島幸彦氏許可済



平泉観光株式会社許可済

4. 無量光院跡



平泉町教育委員会許可済



平泉町文化遺産センター許可済

5. 金鶏山



平泉観光株式会社許可済

奥州藤原氏四代の系譜

藤原清衡－中尊寺を建立。仏国浄土を目指す

西暦1100年頃、豊田館（奥州市江刺区）から平泉に移転。不幸な前半生を負った彼の願いは、みちのくの統一と平和であった。産金による富をもとに都の文化を積極的に導入した。



藤原清衡

毛越寺許可済

藤原基衡－毛越寺の建立

基衡の時代は1128年から約30年間続いた。産金の量も多く、最も裕福な時代であった。都との人脈づくりに力を注ぎ、町の玄関口に浄土庭園形式の毛越寺を建立した。



藤原基衡

毛越寺許可済

藤原秀衡－浄土庭園の無量光院を造営。平泉を完成。 潤沢な金で中国の文物を輸入

後白河法皇、平清盛、源頼朝が政権争いを繰り広げた激動の時代。どの勢力とも距離を保って政治力を増し、鎮守府将軍、陸奥守となり、名実ともに「北方の王者」となった。



藤原秀衡

毛越寺許可済

藤原泰衡－平泉は100年の栄華の後に滅びたが、平泉を戦場とせず、 中尊寺、毛越寺をはじめ諸寺院を存続

文治5年（1189年）、源頼朝は大軍を率いて侵入した。平泉は百年の栄華の後に滅びたが、泰衡は平泉を戦場とせず、中尊寺、毛越寺をはじめ諸寺院は存続、金色堂に父秀衡をまつたのも泰衡であり、平泉文化を守った。



藤原泰衡

中尊寺許可済

清衡はなぜ中尊寺を建立したのか。

11世紀後半の前九年合戦、後三年合戦により唯一一人勝ち抜くも、父や妻子、親族の多くを失い不幸な前半生を負った藤原清衡の願いは、陸奥の統一と平和であった。

まず中尊寺を建立して、仏教によって文化的な政治をアピールした。さらに、産金によって富をもとに都の文化を積極的に導入。模倣にとどまらず、先進性や独創性を究め、文化によって平和を目指したことに、平泉文化の意義がある。



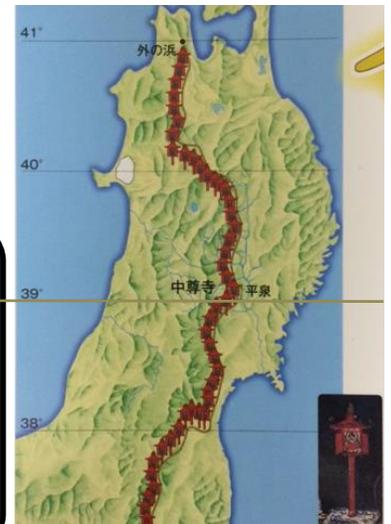
中尊寺許可済



毛越寺許可済

中尊寺はなぜこの地に建立されたのか。

中尊寺の名前の由来は、一説に「陸奥中央の尊い寺」ということで、陸奥の北（外の浜）から南（白河の関）まで、笠塔婆を1町（109m）に1本ずつ合計約5,000本を立てて、中心を測り中尊寺を建立した。水陸交通の要所でもあり、清衡は、金や馬、北海の産物など、豊かな資源を供給して、都に干渉されない平和な浄土を目指した。



シルクロードの終着点

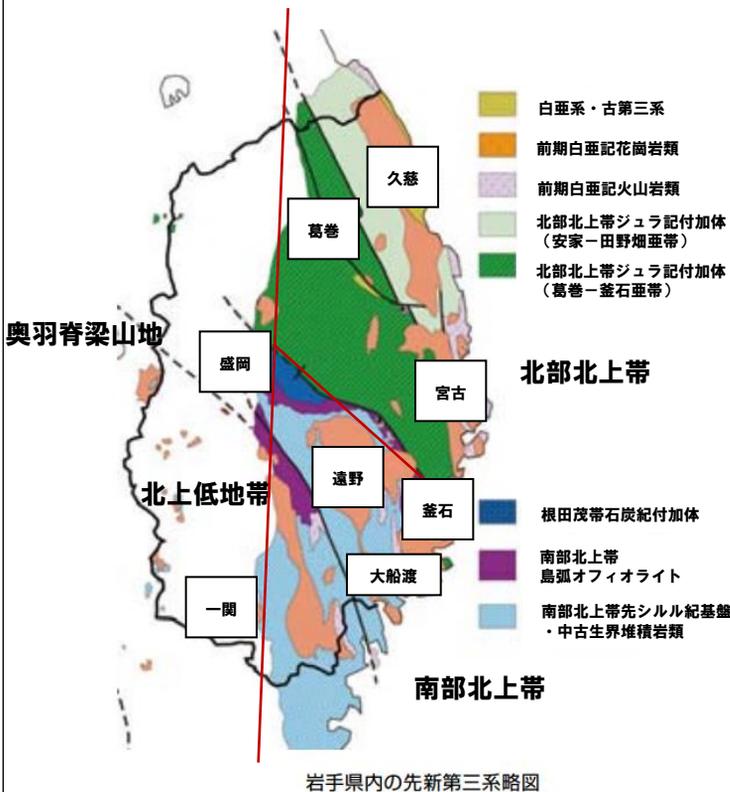
北緯39°

シルクロードから敦煌（とんこう）、そして中国仏教の聖地、五台山から北緯39度を真東へ進むと、そこは平泉。インドで生まれた仏教は北と南で分かれて伝わり、同じ12世紀、それぞれの東端である平泉とアンコールワットで花開いた。文化が進んだ宋の時代、中国からは、貿易港・寧波を通じて経典や磁器などが平泉にもたらされた。

平泉は自然災害（地震など）に強い地域

●岩手県土の誕生

日本列島はもともとロシアの沿海州と一体となっており、岩手県の北上山地と阿武隈山地と距離が近かった。年月を経て、ある断層を境に東側にある北上山地が北へ、西の阿武隈山地が南へと横ずれして引き離された。続いて、日本列島が大陸から分離して現在の位置へと移動。その頃は、北上山地は一つの大きな島で西側には浅海をなし、奥羽山脈はまだなかった。奥羽山脈の隆起は、その後に始まり北上山地との間に北上盆地が生まれた。北上山地は長く浸食にさらされ、最終氷河作用により斜面がならされた結果、今あるようななだらかな地形ができあがった。



●平泉は地質が強固！

■北上山地の地質

- ・北部北上帯と南部北上帯で形成
- ・南部北上帯-日本最古の地質
- ・平泉は、南部北上帯に属し、地質が強固

●平泉は地震の影響が少ない地域！

- ・県内は比較的活断層が少なく、北上高地の地盤も安定している（北上低地西縁断層帯が一番近くとされる）。

永広昌之、越谷 信 「岩手県の地質」より引用

清衡が平泉を拠点にしたのは、自然被害に強い地域であったことも理由のひとつかもしれません。



平和で平等な「浄土」の世界観を現代へ語り継ぐ

●目指したのは、平和。

源平が争いを繰り広げていた平安末期、奥州藤原氏初代の清衡は、今の東北の地で半ば独立を保ちつつ、崇高な思想をこの世に表現しようとした。

私たちに伝えたかったのは、きらびやかなこの地の理想郷であり、平和で平等な浄土の世界観だった。

千葉信胤氏（平泉文化遺産センター館長）
トランヴェール 2016.6号 奥州藤原氏、
百年の平和を支えた黄金の力 より引用

●現世界が混迷する今こそ、平泉の平和の理念を発信。

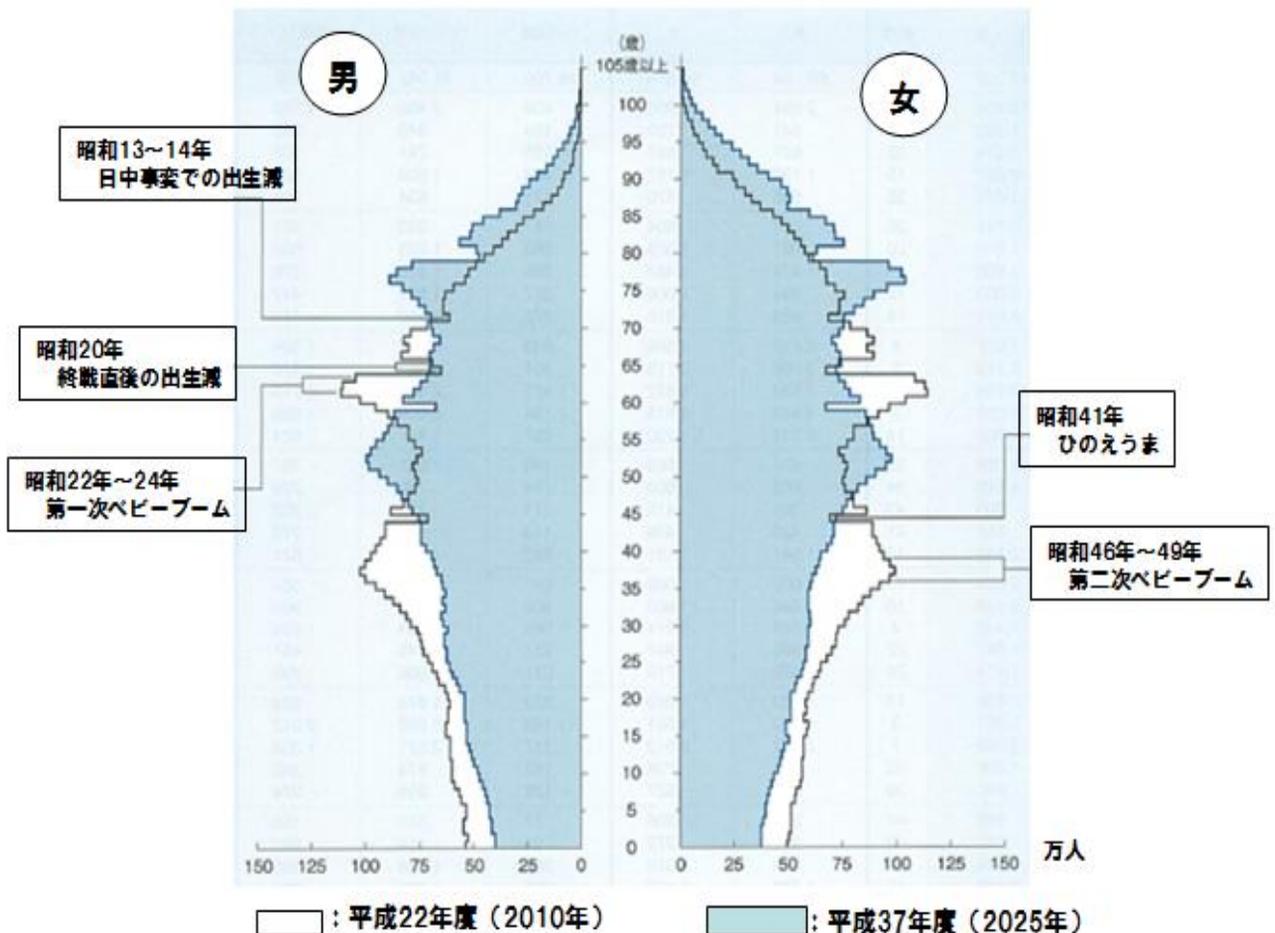
—平泉町長 青木幸保 氏—
岩手日報 2016.6.29発行 より引用



中尊寺許可済

少子高齢化社会！！

近年の我が国人口の年齢構造を見ると、年少人口（15歳未満）の減少と老年人口（65歳以上）の増加が著しく、少子高齢化が急速に進んでいる。人口構造の変化について、いわゆる人口ピラミッドの変遷で見ると、戦前からの「富士山型」から、高齢化の進展により、二度のベビーブームによる凹凸はあるものの、現在では「釣鐘型」となっており、将来的には、さらに少子化が進んで、「つぼ型」に変わっていくといわれている。少子高齢化の進展とともに、献血者は減少の傾向にあり、献血事業の基とも言うべき献血血液の確保が重要となってきています。



ホームページも
要チェック!



岩手県赤十字血液センター



URL <http://www.iwate.bc.jrc.or.jp/>

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.



日本赤十字社

Japanese Red Cross Society



日本赤十字社

〒020-0831 岩手県盛岡市三本柳6-1-6

献血推進課 TEL 019-637-7201

(編集: 川上 寛正 監修: 中居 賢司)



もりおか献血ルームメルシー

morioka blood donation room

〒020-0022

岩手県盛岡市大通り2-3-7「CT33」4階

TEL 019-653-6511